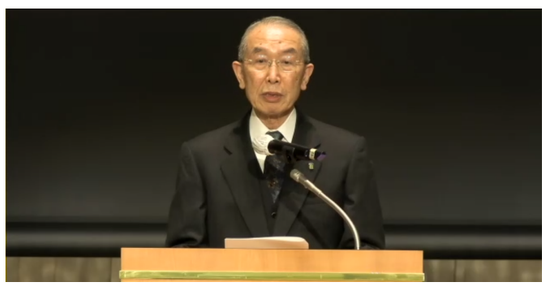
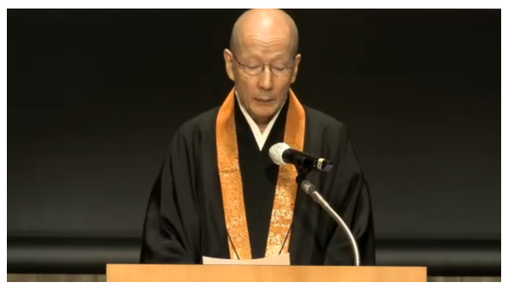
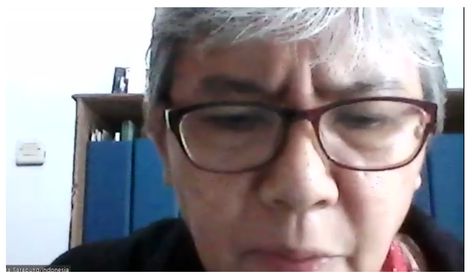
本大会| ４日目

共に旅をし、行動を起こそう：第9回ACRP東京大会総括





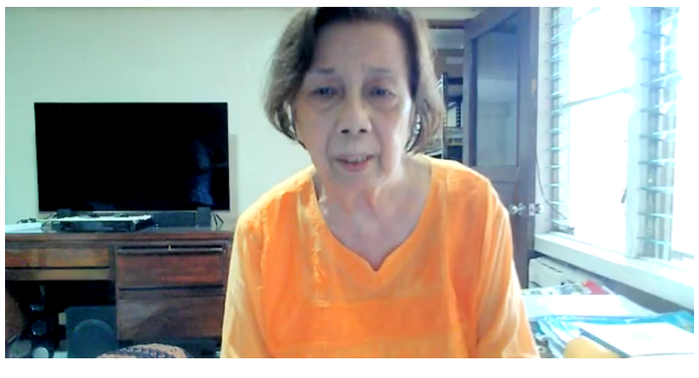


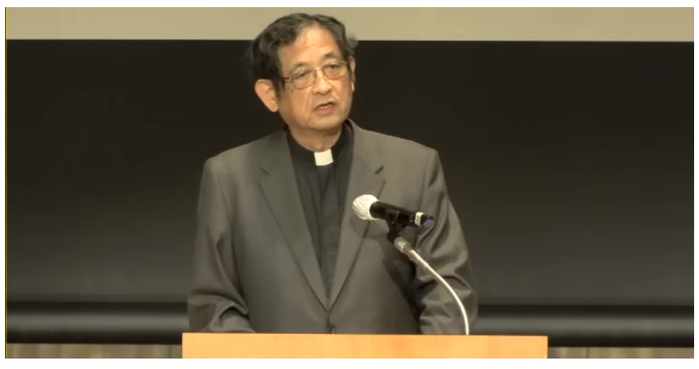
第9回ACRP東京大会の締めくくりで、登壇者が繰り返し発言したのは**「ありがとうから行動へ」**という言葉であった。アジア最大の諸宗教ネットワークであるACRPは、第9回大会宣言文で「我々のアジアを、すべての人々にとって、より包括的で、健全で、豊かで平和な居住地へと変革することを提唱するモチベーションを与えた。私たちはまた、様々なプログラムやプロジェクトの実施に向けて、言葉だけではなく、行動していくべきであると確信した」と記した。

アジアの文化と精神性に導かれた新たな熱と深い献身をもって、第9回ACRP大会の目標と提言を実現するために、大会は満場一致で新たなリーダーを選出。WCRP/RfPオーストラリアのデ**スモンド・カーヒル教授**が実務議長に選任された。副実務議長は中国宗教者和平委員会（CCRP）の**デン・ゾンリャン氏**、事務総長はWCRP/RfP日本の**篠原祥哲師**。名誉会長に同日本の**庭野日鑛師**と同インドネシアのデ**ィン・シャムスディーン博士**が就任し、共同会長に同インドの**ディパーリ・バノット博士**、同インドネシアの**アフマド・スアディ博士**、同日本の**杉谷義純師**、韓国宗教人平和会議（KCRP）の**ウォンヘン師**、アジア太平洋女性信仰者ネットワーク（APWoFN）議長としての役務就任で**エルガ・サラプン師**が就任した。

ACRPはこの5年間、フラッグシップ・プロジェクトを通じて飛躍的な進歩を遂げた。新型コロナウイルスパンデミックの最中にも、ACRPは特に社会から疎外された分野の人々に奉仕し、平和を提唱するという使命を果たし続けた。今回、ACRP事務総長を退任する**根本信博博士**は挨拶の中で、「ACRPファミリーに貢献でき、本当に幸せです」と深い感謝の意を述べた。

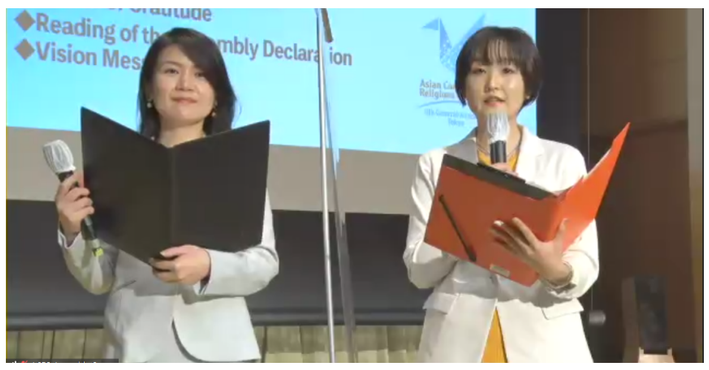
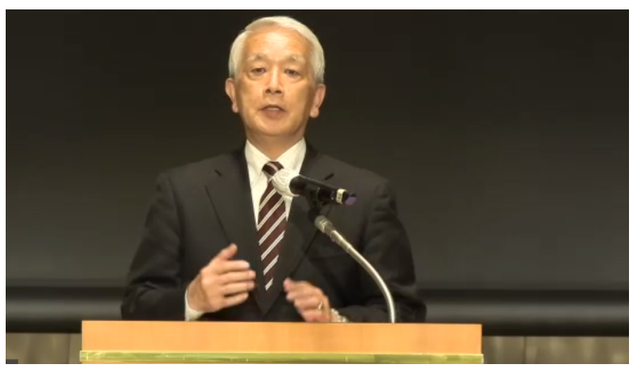
また、共同会長を退任される方々の挨拶については以下の通り。
CCRPの**ガンフ・リー師**は、ACRPについて「平和と調和に貢献するために、アジアのさまざまな宗教的伝統の包括性と連帯を最大限にする協力の道である」と述べた。ACRPの設立以来、長年貢献してきた**ローデス・マスツーラ師**（WCRP/RfPフィリピン）は、その在任期間を「ひとつの長い幸せな学習経験」と表現した。





PWoFN議長を10年以上務めた**リリアン・シソン博士**（同フィリピン）は、「ACRPの仲間や友人と共に仕事をするのは、喜びに満ちた経験でした」と語った。また、**N.ヴァスデバン師**（同インド）はACRPリーダーとしての経験を「人生と奉仕の貴重な経験」と表現した。同日本委員会会長の**庭野日鑛師**は、感謝の気持ちとACRPを通じてアジアに奉仕するという弛まぬ意思があるからこそ、との言葉と共に、リーダー達の献身を称賛し、「皆さまの大きな成功を期待している」と述べた。

ACRPシニアアドバイザーの**神谷昌道師**は、本大会で生まれたACRPのビジョンを共有し、今後5年間のミッションを明確にすることを報告した。新たなフラッグシップ・プロジェクトは、以下の通りである。1)フラッグシップ・プロジェクトの推進、2)効果的なパートナーシップの構築、3)男女共同参画の推進、4)宗教間教育の促進、5) IRC（諸宗教評議会）開発への関与、6)資金調達の推進。

ACRP新事務総長に選出された**篠原祥哲師**は、就任演説の中で現代における戦争の教訓に思いを馳せた。そして、アジアに平和と社会的調和をもたらすために、WCRP/RfP日本委員会の先達がアジアの人々への懺悔と償いの気持ちを大切にACRPの活動へ取り組んできたことを大会参加者に思い起こさせた。すべてのチャプターと宗教指導者は、具体的な行動を起こすことにより、ACRPを強い希望の源とするために協力すべきであると述べた。最後に、「誰一人取り残さない」という決意を改めて表明し、参加者全員に「ACRPとして共に素晴らしい旅に繰り出し、行動を起こそう」と呼び掛けた。

第9回ACRP東京大会は、WCRP/RfP日本委員会のホストにより成功裏に終了した。同日本委理事長の**植松誠師**は、「6日間の大会プログラムを無事に終えることができ、皆さまに心より感謝申し上げます」と挨拶した。